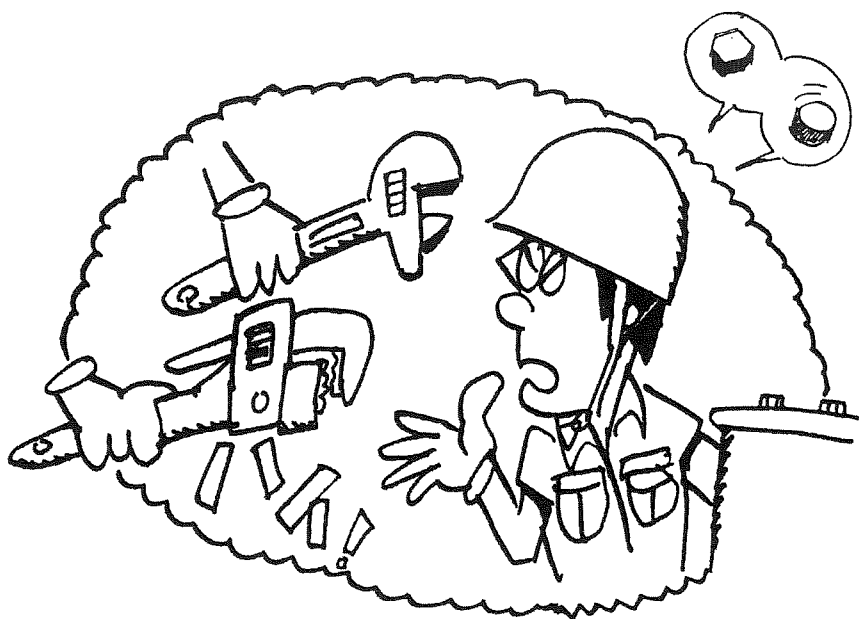


大は小を兼ねる

「大同小異」と妥協しない



▼「大は小を兼ねる」といいます。小さい物が大きい物の役割を兼ねることはできないが、大きい物が小さい物の役割を兼ねることはよくあることです。

たしかに、「少な過ぎるよりも多過ぎる方がよい」「大き過ぎる着物は着られるが、小さい着物は裂ける」といつて、大きい方が良いことは多いようです。

▼しかし、「大が小を兼ねない」ことも多いものです。「鳥籠で虫は飼えない」「ふとんの縫針で着物は縫えない」「五寸釘は一寸釘の代用にはならない」「電柱は杭にはならない」「大砲で兎は射てない」「地曳網で白魚は取れない」など、大が小を兼ねないことも色々です。

▼職場ではどうでしょうか。大が小を兼ねたり、小が大を兼ねることで問題はないでしょうか。特に、工具や保護具などに関して問題があります。言葉では「応用しているんだ」といいますが、実際は面倒なのでつい…、というのが現実のようです。

▼「大同小異」という言葉もあります。大部分は同じで、少しだけ異なるというもので、「大して違いはないじゃないか」と思われますが、その作業に合った正しい寸法の工具類や、体型等に合った保護具を正しく使うことが大切です。

「兼ねる」のは合理的で良いようですが、マイナスのことも考える必要がありそうです。